

必おれを為しより在作河内守直を以て後
代よき（至江別多江の海城を堅固に據て
と云く明徳記も河内守の舊代在作河
内守とあり又應仁記も島山右衛門作義就
上洛の条下に文正元年九月上旬に熊死水
山を立て即河州へ入國を河内守直若井
の城を築き大堀二重三重に上させを糧
堀を築矢指忌を成軍勢に及び斗ふてあり
りりりり然ふ義就こそ熊死を以て張きしれ
よりと云て河中の人民右衛門直より發動

一これをも時に長あたりと換はる然も天
下にぬきき勇武の人こそ我々思ひて誠にお
いりなり罷り城なりたてゝいせめ落さん
きも物をと平生亂世に人のきりけ平城
よも吾にて信服切て西詮なりとや思ひ
らん賢なるによりて高良の筒井りおと
落にりもされいよき城にき糧はふりて
糧勢なるに一金銭もあなとり除きしを
よりんでやとよりらん筒井つて井筒よか
る在作河内守直の姿なりなりと云く